

中国の台湾侵攻について

早稲田大学 公共政策研究所 招聘研究員

元防衛大学校 教授

源田 孝

2025.7.26(土)

本日の報告の基調は、ローマ時代の古い警句
「汝、平和を欲するならば、先ず戦争に備えよ」

方針:日本国民の生命と財産を侵略から守る。
そのため準備、対処、復旧の**総合計画**を準備する。

準備:戦争に備えて準備し、被害を最小限に食い止める。

対処:自災と異なり、**人災である戦争は必ず防ぐ。**

復旧:被害は早急に復旧する。

ウクライナ戦争で分かったこと

ロシア

- ・国連安保理**常任理事国**で**核保有国**のロシアが侵略した。
- ・国際社会は**国益**の爲なら**弱肉強食**であることがわかった。。

多数の兵士が死傷した。多くの市民が巻き添えになった。

どちらも経済的に困窮している。

戦争の終結は難しい。

戦争は悲劇であり、いかに愚かな行為であることがわかる。

国連安保理常任理事国のロシアが侵略したので、中国も台湾に侵攻する恐れがある。

- ・大国ロシアに対して勝ち目はまったくない。
- ・経済は破綻し、国土は荒廃し、ヨーロッパ最貧国となった。

中台の国際関係

中国

習近平政権は外国からの危機をあおって、国民の不満を外に向ける可能性がある。

- ・ 少子高齢化が進み、若者の失業率が高く、企業の倒産が多く、国民の社会不満が高まっている。
- ・ 習近平政権は強権と監視で社会で統制している。

台湾

- ・ 中国と台湾は同一民族で往来が多い。
- ・ 中国と台湾は経済的には密接につながっている。
- ・ 中国に親近感を抱く国民が多い。
- ・ 野党の中国国民党は親中的である。

2023年版 中国標準地図



台湾を中国領土
として表示
台湾省長を任命

台湾侵攻の分析

- **核心的利益** 台湾は妥協も譲歩もしない。
- 習近平は、「**祖国を完全統一するという歴史的任務は必ず実現しなければならず、必ず実現する**」と述べた。(2021.10.9)
- 平和統一が大原則。武力統一も排除しない。
- 習近平は台湾を統一して、毛沢東のような民族の英雄になろうとしている。
- 習近平は2027年まで国家首席である。



2027年までに台湾に侵攻する可能性がある。

中台軍事力の比較

			中 国	台 湾
人口			約14億2000万人	約2350万人
総兵力			約204万人	約17万人
 陸上戦力	兵力		約97万人	約9万4000人
	戦車など		約6050両	約750両
 海上戦力	海兵隊		約4万人	約1万人
	艦艇		約720隻 約230万 ^{トン}	約250隻 約21万 ^{トン}
 航空戦力	作戦機		約3200機	約510機
	近代的戦闘機		1500機	321機

アメリカの支援がないと台湾は中国を撃退できない。

中国 人民解放軍 戦区



近代化した中国人民解放軍



台湾侵攻の動機

1. **台湾の独立宣言** : 「中国は一つ」の政策に逆らって台湾が独立を宣言すれば、軍事介入せざるを得ない。
2. **人民解放軍の誤判断** : 人民解放軍指導者が誤判断し、「今なら台湾制圧は成功する」と習近平に報告した場合。
3. **共産党内の権力闘争** : 政敵が現政権の外交政策を「弱腰」と批判すれば、対外強硬策を取らざるを得ない。
4. **民衆の不満の爆発** : 国民の不満が高まった場合、政府は批判の矛先を逸らすため、対外強硬路線に踏み切る。
5. **独裁者の判断ミス** : 独裁者が判断ミスを犯し、更に人民解放軍も独裁者の好む報告をした場合。この可能性が最も高い。

台湾侵攻のシナリオ

第一段階：すでに始まっている。

- ・台湾周辺海・空域での威嚇
- ・軍艦や空母の建造
- ・年間2億回のサイバー攻撃

第二段階：今後起こるグレーゾーンの闘争

- ・台湾内親中派との連携
- ・反体制世論工作、フェイクニュース、治安の悪化
- ・隔離、海上封鎖、サプライチェーンの寸断
- ・漁民に偽装した兵士による離島へ上陸、騒乱

台湾侵攻のシナリオ

第三段階：武力侵攻

台湾周辺の制海権と制空権の獲得

- ・台湾の統一宣言
- ・サイバー攻撃で電気 / 通信インフラの機能停止
- ・台湾空軍を撃破して制空権獲得
- ・ミサイル攻撃で重要施設破壊
- ・海上封鎖してアメリカ海軍の接近拒否

台湾に上陸して全土を占領

- ・大艦隊で接近し、台湾北部の海岸に上陸して台北占領
- ・総統官邸を占拠し、議会を解散し、軍部と警察を制圧して
占領統治を開始

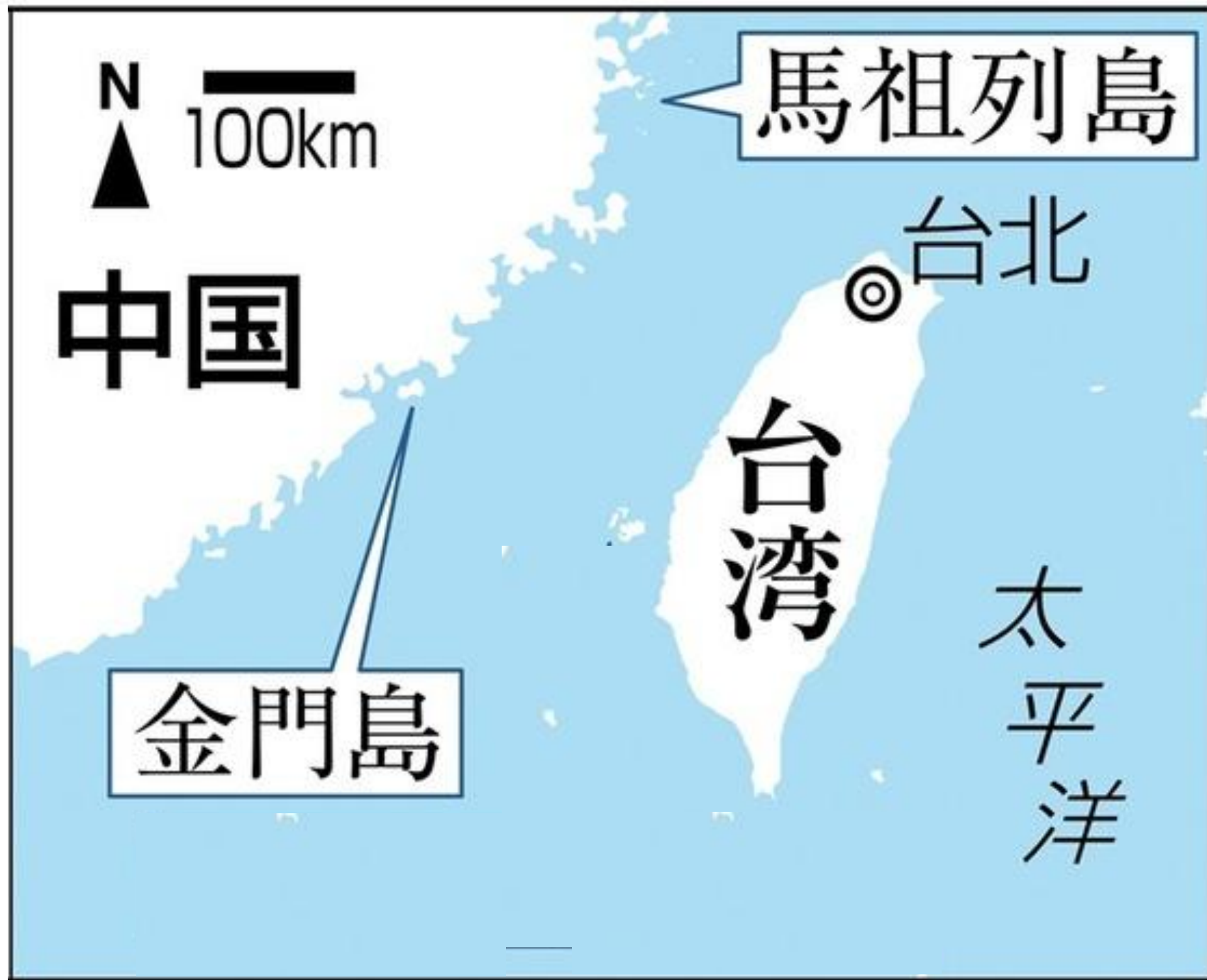
情勢判断

- 台湾海峡は140kmで潮流が速い。
- 夏は幾つもの台風が通過する。
- 台湾北部に上陸適地が少ない。
- 海峡を渡って武器、弾薬、燃料、食料、医薬品の輸送は困難である。
- 中国海軍は実戦経験がまったくない。

結論

- 上陸作戦の成功は夢物語である。
- 台湾の領土の金門島、馬祖列島、東沙群島、太平島を占領する可能性がある。





東沙群島地理位置圖



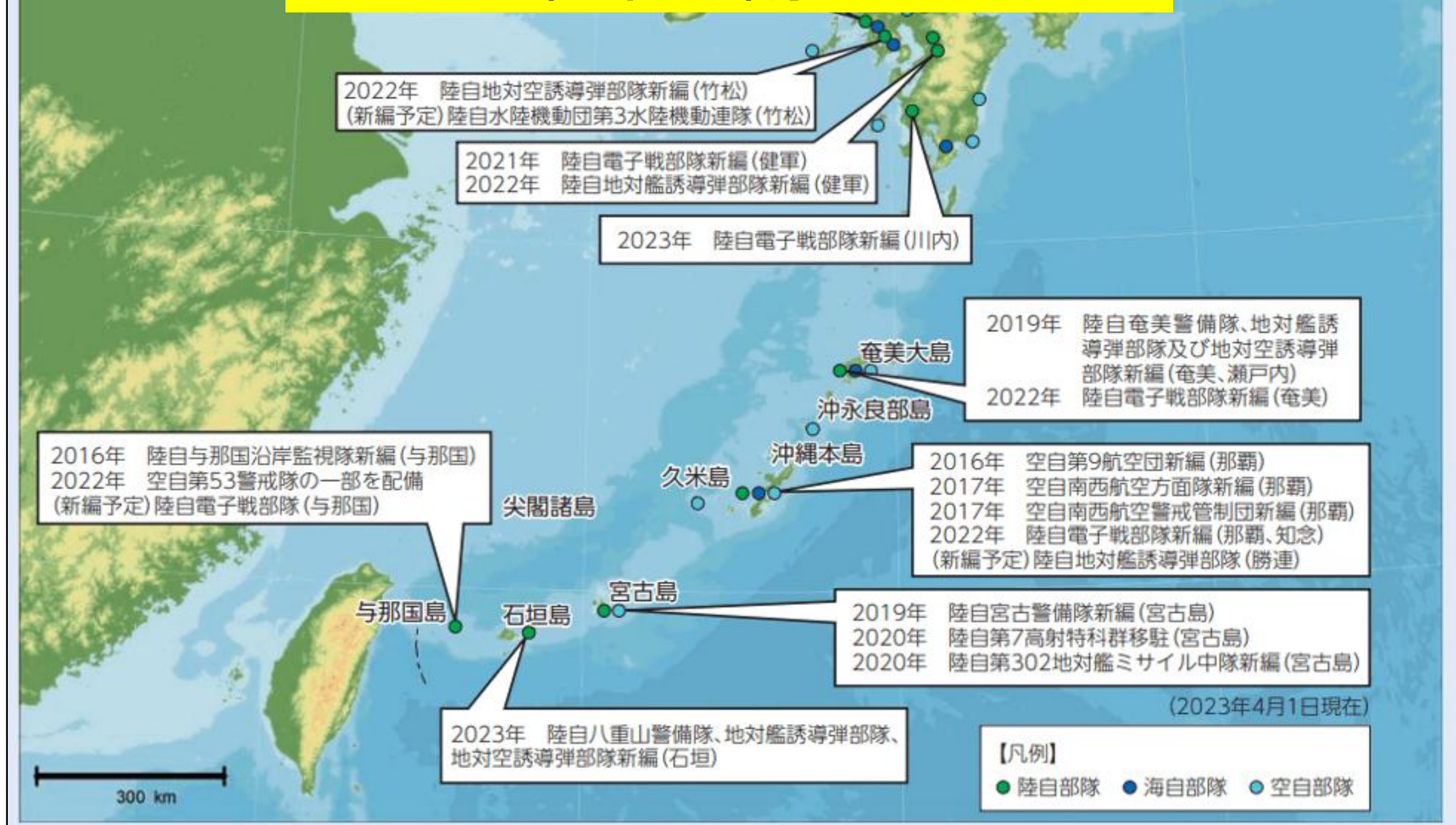
○中国が埋め立てた七つの岩礁
●台湾が実効支配する太平島



日本への波及

- ・日本には台湾防衛の責任はないがアメリカにはある。
- ・沖縄県からアメリカ軍が出撃すれば、沖縄県が攻撃される可能性がある。
- ・ミサイルが沖縄県に落ちて沖縄県民が死傷した場合は、中太平洋戦争に続き、再び戦火に巻き込まれる沖縄。これほどの悲劇、これほどの不幸は無い。
- ・中国に遺憾の意を表明して非難するか、中国にミサイルで懲罰的攻撃を加えて反撃するか、究極の選択となる。
- ・とりあえず、政府は沖縄の先島諸島から住民、旅行者12万人の避難を計画している。

九州と沖縄県に増強した自衛隊



沖縄上空の防空戦闘(イメージ)



沖縄に飛来するミサイルは自衛隊が必ず撃墜する。